

第9話

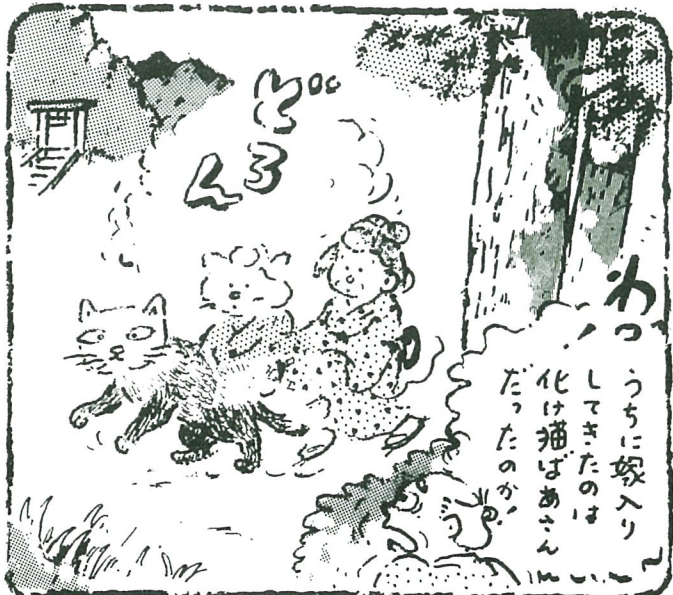
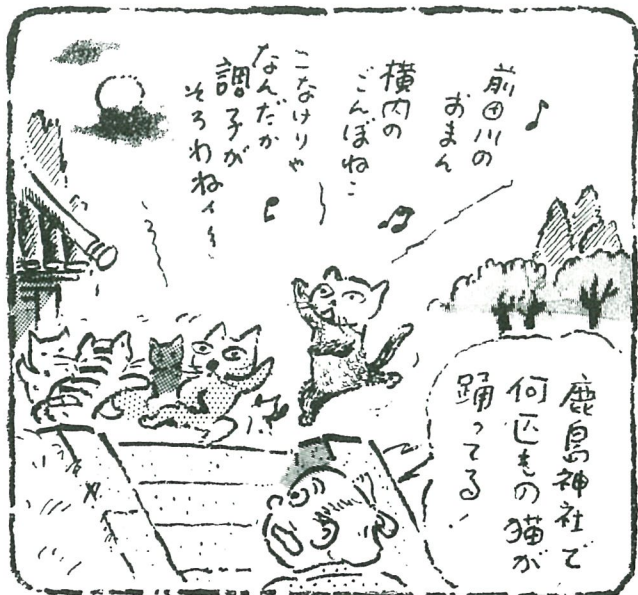
言

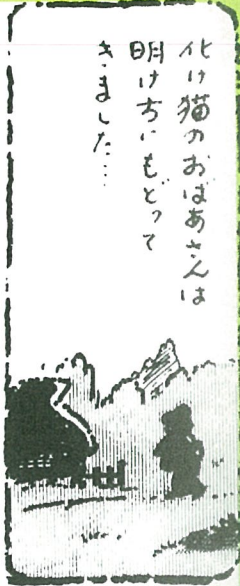
頃は元禄初期の頃…
吉むらの中下というところに
おばあさんと死に別れた一人暮らしの
又右エ門というおじさんがいた



たまがもの
民話と伝説

又右エ門と西念坊
また 西念坊





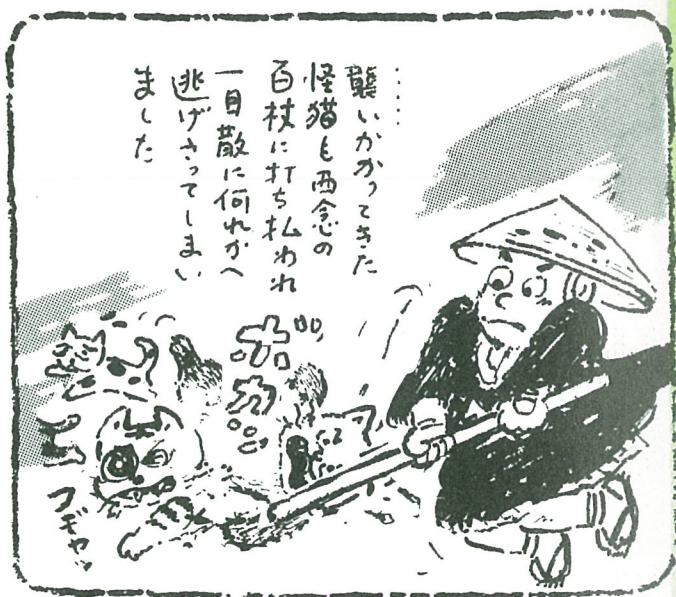
化け猫のおはあさは
明け方にもとって
きました...



こんばんはとかが
続いたある夜のこと
たまたま慶島神社の
下を通りかかった
旅の僧がありました。
—名を西念という
若い僧でした。



なんやら
話しまが
すると思ったら
怪しい猫
たちだったのか



驚いがかうてきた
怪猫も西念の
百杖に打ち払われ
一目散に何れかへ
逃げさってしま
ました

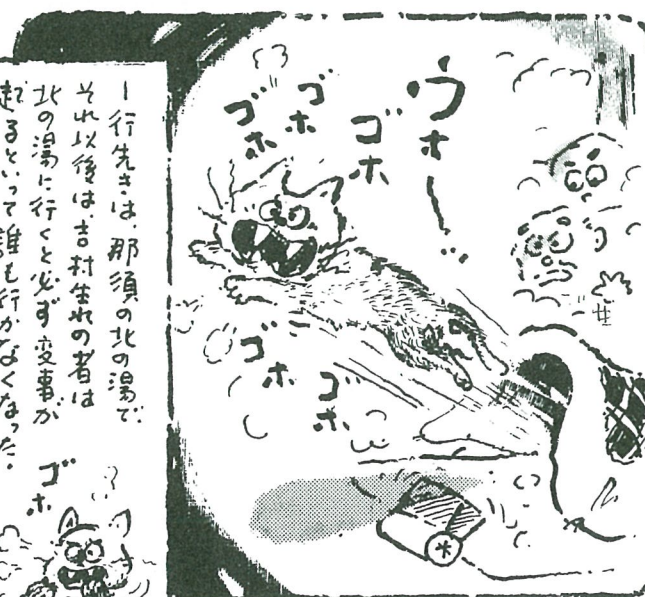


—血痕をたどて
怪猫のあとを
追ってみると
そこは又右王門
おじいさんの家
でした

あや?
うちの
はあさんなら
風邪をひいた
とがで
また寝とるよ



—西念は坊はおじいさんに
生杉の苗木を火に
くべるようにいきました



—行先きは那須の北の湯で
それ以後は吉村生木の者は
北の湯に行くに必ず変事が
起るといって誰も行かなくなった。